

16-19世紀、伝統都市の分節的な社会＝空間構造に関する 比較類型論的研究

Comparative Studies of the Segmental Socio-Spatial Structures
in Traditional Cities, 1500-1900

吉田伸之 (Nobuyuki Yoshida)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授



研究の概要

本研究は、16-19世紀における伝統都市の歴史的特質を、巨大化を遂げた諸都市の分節的な社会＝空間構造（分節構造）、とりわけその基底にある社会的結合の存立機制に注目し、伝統都市の分節構造に関する主要な史料群の把握・収集とその共有化をはかりながら、事例間の比較類型論的把握を格段に進展させようと試みるものである。

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学

キーワード：日本史、西洋史、建築史・意匠、都市史、比較歴史学

1. 研究開始当初の背景

本研究の前提には、研究代表者が1992年以来三次にわたって取り組んできた伝統都市に関する共同研究がある。そこでの成果と残された諸課題を確認する中で、研究者間の交流を国際的に大きく広げ、新たな論点や方法を模索することが重要であると自覚された。それは、21世紀が最初の十年を経ようとする中で、地球的規模で一段と増殖する巨大な現代都市という類型を、歴史的な文脈において確定することが、喫緊の課題であると思われたからでもある。

2. 研究の目的

(1) 伝統都市論を総括し、新たな論点を提起すること。本研究ではこのために、『シリーズ伝統都市』全4巻を企画・刊行する。
(2) 伝統都市に関する主要な基礎史料群を包括的に把握し、新出史料群の調査を行うこと。特に、本研究では日本近世を中心に、フランス、イギリス、中国、アメリカ合衆国などについて、16-19世紀以来の歴史的な系譜を持つ旧伝統都市を取り上げ、それぞれの社会＝空間構造を明らかにする上での史料収集に努める。また得られた情報を、印刷物やデジタル媒体によって公開を図る。
(3) 本研究に関わる国際的な研究交流を促進し、伝統都市の比較類型把握に実践的に取り組む。その中で、伝統都市論の諸課題をめぐるシンポジウムやラウンドテーブル

&ワークショップを企画し、研究交流を図るとともに、研究者間のネットワークを強固なものとする。

3. 研究の方法

(1) 研究代表者と研究分担者（2008年度以降は連携研究者）を中心に、主要な個別研究課題を14個設定し、それぞれを基礎共同研究という枠組みで運営している。①江戸・浅草寺地域研究、②近代移行期の江戸＝東京、③「江戸と千葉」の関係構造、④宗教都市・近江坂本、⑤小規模伝統都市・飯田と周辺社会、⑥遊廓社会、⑦山里と巨大都市の関係構造、⑧伝統都市ニューヨークの現代都市化、⑨西国城下町の分節構造—山口と萩、⑩備後鞆の浦の社会構造、⑪近世パリの社会的結合、⑫近世ロンドンの社会的結合、⑬中国城市研究（天津・北京）。

(2) 基礎史料群の調査や情報収集は、これら基礎共同研究が軸となり、遂行してきた。情報は研究分担者（連携研究者）の所属研究機関でストックし、また研究代表者の下（コアセンター）に情報を集中する形をとった。

(3) 基礎共同研究の推進を担保するために、小研究会を9つ運営している。①「江戸町触を読む会」、②「描かれた都市」研究会、③「宗教と都市」研究会、④『シリーズ伝統都市』研究会、⑤「江戸と千葉」研究会、⑥山里研究会、⑦「遊廓とその周辺」研究会、⑧「備後鞆の浦」研究会、⑨「丘の上」研究会。

4. これまでの成果

(1) 成果物の刊行企画と出版 ①『シリーズ・伝統都市』全4巻。伊藤毅氏・吉田の編で、1巻「都市アイデア」、2巻「権力とヘゲモニー」、3巻「都市インフラ」、4巻「分節構造」をそれぞれタイトルとし、全体で42人の歴史研究者による共同研究である準備過程ではのべ15回の研究会を積み重ねた(刊行開始はやや遅延し、2009年7月からの予定である)。②『年報都市史研究』14～16号の編集と刊行。各年度秋に開催するシンポジウムや基礎共同研究の成果を速やかに公開するため、コア・センターを実質的な基盤として編集・刊行するもの。③フランス都市史学会との研究交流の最初の成果物として、『パリと江戸—伝統都市の比較史』を企画・編集(2009年5月刊行予定)。(2) 海外研究者との研究交流を以下の研究機関に属す研究者との間で実施した。フランス：フランス都市史学会、フランス社会科学高等研究院日本学研究所、ボルドー大学、パリ第4大学(ソルボンヌ)、リール大学。アメリカ合衆国：コロンビア大学、ノースカロライナ大学、イリノイ大学。中国：早稲田大学、国文学研究資料館、新華社通信。(3) 基礎史料の調査・収集を実施し、主に次のような成果を得ている。①江戸=東京：「順立帳」、「撰要永久禄」(公用留、御用留)、「東京六大区沽券地図」、遊廓関係史料、鉄道敷設関係史料、②山口：萩城下町絵図、萩歴史博物館蔵山縣家文書、③飯田：飯田城下図関係。飯田藩家中・飯田城下町関係史料群(野原家文書、小木曾家文書、野村家文書)。千村平右衛門関係史料(長野県立歴史館所蔵写真資料、飯田市歴史研究所所蔵史料、下伊那郡清内路村下区有文書、同村原家(土佐屋)文書)、④近江商人関係史料：『滋賀県野洲市大篠原小澤家文書現状記録調査報告書』刊行、⑤「江戸と千葉」関係史料：小河原家文書、⑥パリ：パリ市当局記録、国王裁判所シャトレ文書、⑦ニューヨーク；アストリア家文書不動産関係史料、⑧ロンドン：データベース ECCO、EEBO における伝統都市関係史料、⑨天津：天津イギリス租界関係史料、⑩寧波・上海・フエなどの伝統建築に関する調査資料。(4) 比較類型把握における方法論の深化。前近代有数の巨大都市を伝統都市という共通のカテゴリーで括り、それぞれの社会=空間構造の深みと細部から、相互の都市社会の構造的な特質を比較類型論的に把握するというものである。(5) 伝統都市研究の方法論における進展。①分節構造論の検証・深化。②都市アイデアと都市インフラ論の提起。④権力秩序から

みる分節的な社会構造論。

(6) 研究推進の手法における新規性。①ラウンドテーブル&ワークショップによる濃密な研究交流の実施。②『年報都市史研究』などによる成果の逐次的な公表。③翻訳プロジェクトの推進(フランスやアメリカ合衆国との間で)。

5. 今後の計画

①今後の共通論題として「都市民衆世界と近代」と「伝統都市の比較類型」を設定し、これらをテーマとするシンポジウムを開催する。その成果は『年報都市史研究』に掲載する。②内外の研究者を招聘し、ラウンドテーブル&ワークショップを次のように開催する。a「小規模伝統都市—メジエールと飯田」、b「イギリス植民地下インドの伝統都市」、c「近世パリの社会構造」、d「北京の都市民衆世界と社会主義都市アイデア」、e「インド・マラーターの都市社会」、f「近世の王朝都市・京都」、g「オスマン帝国支配下のアレppo」。③『シリーズ伝統都市』全4巻の刊行を踏まえて、その成果と課題をめぐり、執筆者間を中心に、ラウンドテーブルや、公開シンポジウムを開催する。④基礎史料・基幹的な史料の調査・収集を継続する。収集した情報のストック方法や今後の公開方法などについて具体的に検討する。

6. これまでの発表論文等

吉田伸之「寺社をささえる人びと—浅草寺地域と寺中子院」(『身分的周縁と近世社会』6、吉川弘文館 pp.213-260 2007)、吉田伸之「遊郭社会」(『身分的周縁と近世社会』4、吉川弘文館 pp.13-52 2006)、伊藤毅「インフラ都市・江戸」(『江戸とロンドン』山川出版社 pp.81-90、2007)、高澤紀恵「カトリック改革期の聖体会—パリを中心に」(『歴史的ヨーロッパの政治社会』山川出版社 pp.153-189 2008)、森下徹「武士の周縁に生きる—萩城下と家臣団」(『身分的周縁と近世社会』7、吉川弘文館 pp.203-242 2007)、近藤和彦「カナレットの描いた二つの橋：18世紀ロンドンにおける表象の転換」(『江戸とロンドン』山川出版社 pp.224-240 2007)、吉澤誠一郎「近代天津の廟会与民間文化」(近代中国与民間文化』北京：社会科学文献出版社 pp.180-195 2007)

ホームページ等

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/trad3/>